

日本社会情報学会ニュース

第31号 2008. 9. 29

—第13回研究大会特集号—

- I 2008 年度合同研究大会を終えて (黒須会長)
- II 研究大会見聞記 (参加会員)
- III 英文誌への投稿を募ります (JASI&JSIS 英文誌編集委員会)
- IV 学会名口座を新設いたしました (事務局)
- V Web 更新システムの新設 (企画委員会)
- VI 第 51 回日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録
- VII 第 13 回日本社会情報学会 (JSIS) 総会議事録

.....

I 2008 年度合同研究大会を終えて

京大・学習院大・名大・東大と JSIS・JASI 合同研究大会も 4 回目の開催となり、準備や運営も徐々にスムーズになってきたようです。今回の大会は、開催地が東京ということもあり、自由報告件数や参加者も増加したようです。参加者からの大会運営についてのアンケートは、52 通寄せられましたが、基調講演、シンポジウムとも好評であったことが伺われました。大会全体については「とてもよかった(21 通)」、「よかった(24 通)」、「ふつう(3 通)」で、ほとんどの回答者が「よかった」と判断していました。このアンケートには、1) コメンターなど「若手支援」対策が取られていてよかった、2) 多くの学会で発表論文集が CD などになるなかで、紙媒体での発行はとてもよい、などの評価があった反面、発表教室の大きさが参加者の人数に対応できなかった部屋があったこと、一部の教室の空調の騒音がひどかった、などの問題点が指摘されました。

次年度の大会への要望は、1) 発表者が交代する際に PC の交換・立ち上げ等に時間のロスがあったことから、その対策を考えて欲しい、2) 発表セッションのグループ分けに一部そぐわないものがあったので、改善されたい、というものでした。

わたしたちの JSIS の総会は無事成立し、会計報告を含めて議案はすべて承認されました。2007 年度の学会賞は、柴田邦臣氏(大妻女子大)「インターネット・コミュニティ・パステイ — 障害者の ICT 利用と社会参加 —」が選出され、総会会場で表彰されました。また、研究発表賞は、最終日に選考委員会が開かれ、優秀賞として計 5 名が選出されました。JSIS からは次の 2 名の方が選ばれましたが、表彰は次回大会の総会で行う予定です。

森岡武史氏(北大) : 「匿名性によるヴァーチャル・コミュニティの構造変容」

曾我千亜紀氏(愛知芸大) : 「サイバースペースにおける倫理的可能性—新しい社会の連繫を目指して—」

来年の大会は、新潟大学で開催されることになりました。関係者の皆さん、準備が大変でしょうがよろしくお願ひ致します。また、会員の皆さんにも大会に参加されるよう今から準備されますようお願いいたします。

2008 年 9 月 25 日 黒須 俊夫

II 研究大会見聞記

全国大会に参加して・・・・・・・・・・ 愛知県立芸術大学非常勤講師 曾我千亜紀

情報学、それも哲学や倫理学をベースにした理論的側面の展開となると、発表の場を見つけることさえなかなか難しい。哲学的議論の細部に入り込みすぎてしまつては、専門家以外に伝わりにくくなるし、かといって情報学という新しい分野を論じうるほどには、いわゆる伝統的な学会は開かれていないからだ。その点、日本社会情報学会の全国大会では、多岐にわたったテーマで研究発表が行われているだけでなく、同じテーマでも多様なアプローチがなされているところに期待が持てる。

今回、私は同じ研究室のメンバーたちとの共同研究の成果を発表すべく、東京大学本郷キャンパスで行われた日本社会情報学会（JASI & JSIS）合同研究大会に参加した。シンポジウムや講演も興味深いが、私にとって最も有意義であったのは、各自由報告会であった。

実際、私が発表させていただいた電子コミュニティ部会では、私を含め四人の発表者全員に共通のキーワードが「匿名性」であった。しかし、私たちの研究方法はそれぞれ異なっている。実証的研究に基づいたデータを示しながら「匿名性」を論じる者もあれば、むしろ理論的研究から「匿名性」を再考し、再定義を試みようとする者もある。そのとき、両者ともに、それぞれの研究内容に興味を持って聞き入り、問いを投げかけていた。つまり、各自が自分の研究に閉じこもることなく、他の発表者の研究内容に踏まえた問いを立てることができるのだ。これは、一見簡単なようでいて、それほど容易なことではない。いくつかの学会や研究会で、質問と言いながらも、発表者の意向を全く汲み取らず、自分の意見だけを主張するような態度を私は何度も目にしてきたからだ。しかしこの学会では、それぞれの研究が補完的な関係にあることに、私たちはすでに気づいている。私自身は理論的考察を試みているが、実証的データを前に、自分の主張が裏づけられたと感じたり、あるいはまた、予想もしない実例を知って再考を迫られたりする。これこそまさに、研究の刺戟となり、励みともなるのだ。

学問が細分化してしまっている現在、異なる分野の研究者どうしであれば、互いの研究を理解することすら困難なことがある。たとえ同じテーマのもとに研究していても、その方法論が異なれば、理解はできても問いには到らないという事態もめずらしくない。しかし、日本社会情報学会では、社会情報をキーワードに、分野が異なっても、方法論が違っても、対話が可能な開かれた議論の場が広がっている。たとえ、発表者の主張に同意できなくとも、私たちは何かを学び、考え、それを自分の研究に活かすことができる。参加して楽しい学会だ。

この雰囲気はこれからも続いていくことを私は願っている。このような貴重な場が「社会情報学」を研究する者たちに今後も開かれていくことを希望する。それぞれが他の発表者の声に耳を傾け、他の主張や意見を尊重しつつも反論し、議論し、そこから新たな問いを発見し、互いに切磋琢磨していけることが理想だと私は思う。

大会感想記・・・・・・・・・・・・・・・・ 名古屋大学大学院 情報科学研究科博士後期課程

近藤 真由

「日本社会情報学会（JASI&JSIS）合同研究大会」が2008年9月12日～14日に東京大学本郷キャンパスにて開催されました。今年は「デジタル社会の課題に応える社会情報学」というテーマの下に、長尾真氏による「デジタル・アーカイブの意義と課題」についての基調講演を初め、特別講演・シンポジウム・ワークショップ・自由報告等の企画が行われました。

私は、大学院で「電子社会設計論」を学び、電子社会における技術と社会の関わりについての研究を実践的なフルードを通じて行っています。日本社会情報学会研究合同大会へは修士1年の時から参加し、今年で3回目でした。今年は、現在関わっている研究プロジ

ェクトについて、「地域情報システム報告部会」で発表し、座長やコメンテータの先生方から貴重なご意見を頂きました。研究として情報技術をフィールドに活用してだけでなく、プロジェクトを支える体制や資金面等の社会的な課題をいかにして解決し、プロジェクトを継続させていくかが重要になると感じました。

また、その他のセッションにおいても、社会的な視点に着目した研究成果が多数発表されており、社会情報学という時代のニーズを担う分野の重要性を強く感じました。10年後、20年後に「とても便利になった」と言える世の中になるとともに、人々を幸せにするデジタル社会となるような研究成果を示していきたいです。

今後とも諸先生、諸先輩の皆様、ご指導をよろしくお願いいたします。

Ⅲ 英文誌への投稿を募ります (JASI&JSIS 英文誌編集委員会)

Journal of Socio-Informatics Vol.2, No.1 の論文募集を行います。奮ってご応募ください。

投稿申し込み：10月31日まで

論文投稿締め切り：11月30日まで

発行：2009年春を予定

提出原稿のネイティブチェックを推奨します。

申し込み・提出、問合せ先：submit-jsi@yahoogroups.jp

論文投稿の詳細は JSIS ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/>) に掲載しています下記の、Call for Papers of Journal of Socio-Informatics Vol.2, No.1

INSTRUCTIONS FOR AUTHORS SUBMISSION FORM

を参照ください。

Ⅳ 学会名口座を新設いたしました (事務局)

先の総会で承認されましたように、事務局が替わるたびに口座名称や口座番号、口座住所が変わるというこれまでのあり方を改め、NPO 法人の力を借り、学会名で長期固定的な学会口座を開設いたしました。これからは、下記口座名・口座番号で安定的にお振り込みいただけます。

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-38-4 産業プラザ B1
NPO 法人 i コミュニティ内 日本社会情報学会 (JSIS)
会費担当 和泉恵子

Ⅴ Web 更新システムの新設 (企画委員会)

より早く、新鮮な情報を会員や会員外の方に提供するため、Web 更新の手続きのシステム化を図っております。当面、事務局に Web の更新依頼等お寄せいただければ、検討の上、専用 ML を介して迅速に更新いたします。その際、基本的な事項の連絡だけで結構です。

Ⅵ 第 51 回日本社会情報学会 (JSIS) 理事会議事録

日時 2008年9月13日(土) 11:45~12:45

場所 東京大学赤門研究棟第13演習室

出席者 黒須、今田、遠藤、大國、岡田、北村、柴田、守弘、森谷、安田、横井、吉井、藤井

報告事項

1. 第50回理事会以降の活動について

イ. 編集委員会

・和雑誌編集委員会

北村編集副委員長より次の報告があった。第13巻1号の編集作業を進めている。12本の投稿ではほぼ査読が終了し、もうすぐ執筆者に結果を報告する。第12号からハードルが高くなる傾向があり、査読のやり方や投稿規定の見直しも今後検討する予定である。

これについて、完成の目処、また前号の郵送時期などについての質問があった。

・英文雑誌編集委員会

今田編集副委員長より、合同編集委員会事業報告と事業計画について報告があった。創刊号は、印刷ミスの構成がすんで郵送の準備をしていること、第2号については、10月31日原稿締め切りで、来年7月発行の予定であること、内容は、原著論文もしくは学会奨励賞受賞論文の翻訳などとしてほしい旨報告された。これらについて、JASI&JSIS 英文誌編集委員会で議論し、早急に会員に案内をする。

これについて、和文論文の翻訳などでも良いかどうかとの質問があった。また、黒須会長より、会員外には、1650円で販売するとの説明があった。

ロ. 研究委員会

森谷研究委員長より、7月と9月に委員会の連絡をとり、企画委員会と合同で、若手が絡む企画を作ること、ワークショップを実施することなどを確認して進めた旨報告された。

これに関して、各地区の若手研究会なども進める旨発言があり、岡田総括理事より、これら各地区の研究会等開催の様態を事務局に連絡して、ニュース等に載せたいとの発言があった。

ハ. 企画委員会

大國副会長より、企画委員会と研究委員会とで昨日ワークショップを実施し、20名の参加を得て、盛況に行われた旨報告された。

2. 会員状況および会費納入状況について

報告に先立って、新入会員2名について承認された。

事務局長より、2008年9月13日現在の会員数が468名（一般327名、学生141名）、2008年度入会者数25名（一般8名、学生15名）であること、会費納入状況は、2007年度分70%、2008年度分35.5%であることが報告された。

会員名簿の作成について、昨年度の会員の名簿記載事項承認確認に手間取り、170名について確認されていること、しかし、名簿の作成は、来年度に回すことが確認された。

審議事項

1. 第50回理事会議事録（案）の承認について

特に異論なく承認された。

2. 入・退会の承認について

入会者2名名について、報告され、承認された。

3. 2008年度学会奨励賞について

吉井委員長より、奨励賞審査の経過と結果について報告された。

4. 口座管理の外部委託について

事務局長より、学会用振替口座・総合口座の名称・所在地等の長期安定化のために、口座管理をNPOに委託したいとの提案があった。

また、学会誌の学術刊行物としての申請を行い、郵送料の節約に努めたい旨報告された。

これについて異論なく了承された。

5. 2007年度決算（案）及び監査報告について

大國前事務局長より、2007年度決算について報告された。会費納入率向上や理事選出の

ための督促状郵送により、通信費等が増えていること、他方、委員会運営経費は予算よりかなり低い決算となっていること、会費納入率が上がり、全体で197万の繰越金を得たことなどが指摘された。

これについての監査報告では、人件費の適切な使用や、事務局業務の外部委託の必要などが示唆された。

これについて異議なく了承された。

6. 2009年度予算案について

事務局長より、2009年度予算案について、報告された。雑誌発行費や編集委員会運営費の英文誌部分を分け、増額すること、外部委託費を計上すること、理事選出経費、名簿作成費を計上することなどが新たな点として示された。

これについて異議なく承認された。

7. 第13回総会議事録案について

大國理事より、前年度総会議事録について説明され、承認された。

VII 第13回日本社会情報学会(JSIS)総会議事録

日時：2008年9月13日(土)12:45～13:45

場所：東京大学赤門総合研究棟7番教室

◎総会の成立

岡田総括理事より、出席者32名・委任状118名(合計150名)であり、定足数(121名)を上回っており、総会が成立したことの確認があった。

◎会長挨拶

黒須会長より挨拶があった。

◎議長選出

黒須会長より、岡田総括理事を議長に選出したい旨提案があり、選出された。

◎総会議題

【報告事項】

1. 一般会計報告(第48回～51回理事会、会員・会費納入状況)

岡田総括理事より、標記の件につき、報告があった。

2. 学会誌編集委員会報告

イ. 和雑誌編集委員会

北村編集副委員長より、第13巻1号の編集作業を進めており、12本の投稿でほぼ査読が終了し、もうすぐ執筆者に結果を報告すること、第12巻2号は、印刷中であり、今月中に発行予定である旨報告された。

ロ. 英文雑誌編集委員会

今田編集副委員長より、合同編集委員会事業報告と事業計画について、創刊号は、印刷ミスの構成がすんで郵送の準備をしていること、第2号については、10月31日原稿締め切りで、来年7月発行の予定であることが報告された。

これについて、第1号では既発表論文の翻訳があったが、第2号でもこれが認められるかとの質問があった。これに対し、学会賞受賞論文などは積極的に翻訳を受け入れるが、その他の一般掲載論文は無条件ではない、との回答があった。また、第1号の翻訳論文も、依頼論文であったとの補足説明があった。第2号、3号の詳細については、JASI&JSIS英文誌編集委員会で議論し、早急に会員に案内をすると報告された。

また、第1号の翻訳論文も、依頼論文であったとの補足説明があった。

3. 研究委員会報告

森谷研究委員長より、各地区の研究集会等の実施状況について、計画があることが報告された。また、各地区で計画等が決まっている場合は、事務局まで連絡し、そこから全国に情報提供をする旨紹介された。

本年度の研究委員会として、若手研究者支援に取り組む旨報告された。

4. 企画委員会報告

大國企画委員長より、若手研究者支援のワークショップを9月12日に開催し、20名以上の参加で盛況に実施された旨報告された。また、学会 Web の更新作業を進め、全面的にリニューアルする予定である旨報告された。

5. 学会賞選考委員会報告

吉井委員長より、第12巻1号と2号の論文より40歳以下の執筆者になるもの3件を5人で審査し、柴田氏の論文を選定した旨報告された。

6. 2009年度第14回研究大会について

黒須会長より、2009年度第14回研究大会をJASIと合同で新潟大学で行う旨報告があり、北村理事より、開催校としての挨拶があった。

7. 研究発表賞について

黒須会長より、昨年度大会での研究発表賞受賞者の件についての報告があった。

【審議事項】

1. 第13回総会議事録（案）の承認について

資料に基づき、岡田総括理事より報告があった。一部修正の提案があり、了承された。

2. 事務の一部外部委託について

藤井事務局長より、会員の会費の振り込み用振替口座及び、出納管理のための総合口座をNPO法人に管理委託したいとの提案がなされ、異議なく承認された。

3. 2007年度決算（案）及び監査報告について

大國前事務局長より、2007年度決算（案）について報告があり、横井監事より監査報告がなされた。これについて異議なく承認された。

4. 2009年度予算（案）について

藤井事務局長より、2009年度予算案について提案があり、異議なく承認された。なお、これまでの総会における2007年度決算と2009年度予算を中心に審議する方法に関し、当該年度（2008年度）の執行経過に基づく報告や一部修正予算案の提起があっても良いのではないかと、との発言があり、今後検討することが確認された。

日本社会情報学会（JSIS）事務局

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北3丁目5-1
静岡大学情報学部 藤井研究室気付
TEL&FAX 053-478-1522（直）
e-mail : s-info@inf.shizuoka.ac.jp
URL : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/>

日本社会情報学会（JSIS）振替口座（ゆうちょ振替口座）

- ・口座名 日本社会情報学会
- ・口座番号 00140-2-763005
- ・口座住所 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-38-4 産業プラザB1
NPO法人iコミュニティ内 日本社会情報学会（JSIS）
会費担当 和泉恵子